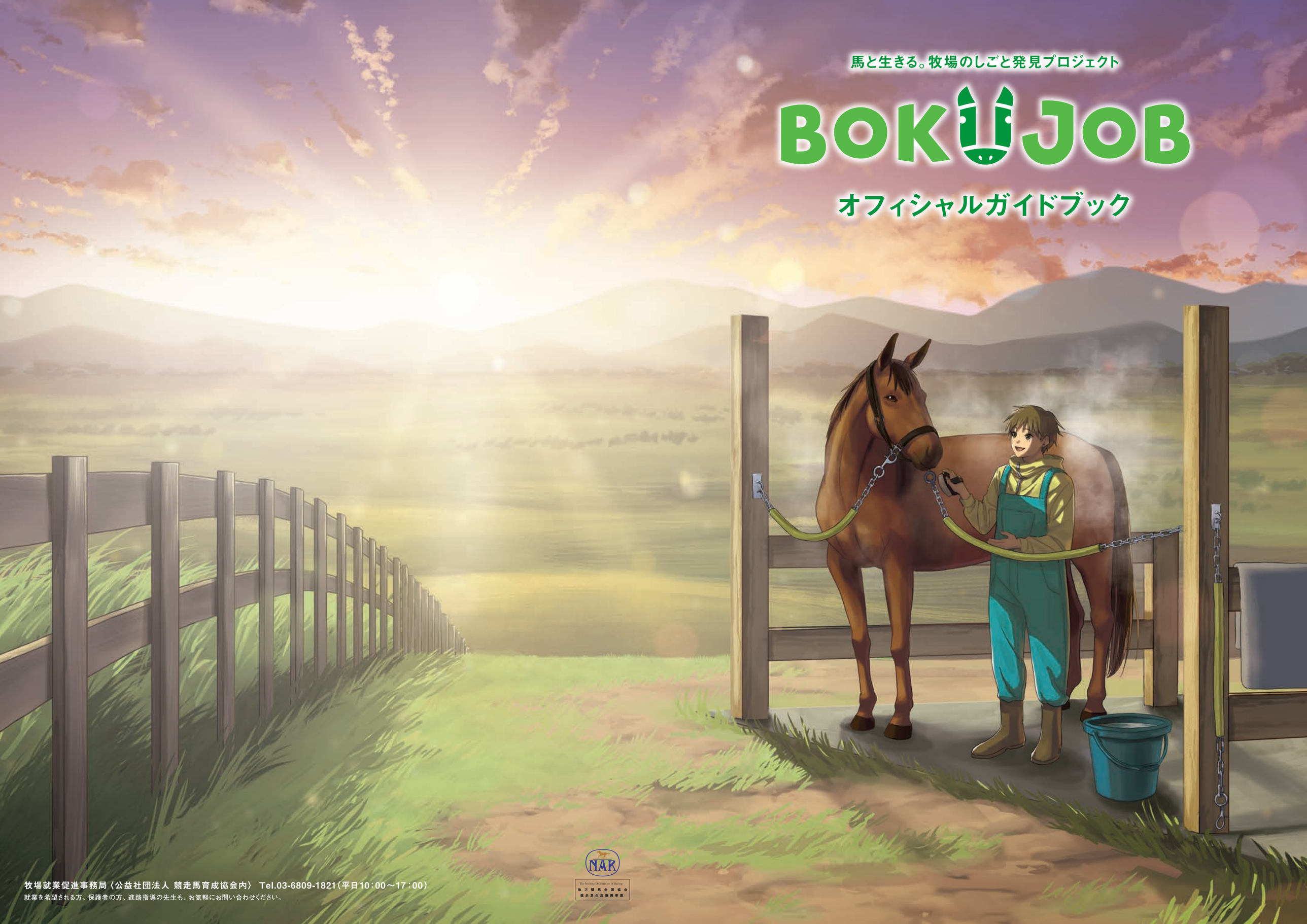
馬と生きる。牧場のしごと発見プロジェクト

BOKUJOB

オフィシャルガイドブック



牧場就業促進事務局〈公益社団法人 競走馬育成協会内〉 Tel.03-6809-1821（平日10：00～17：00）
就業を希望される方、保護者の方、進路指導の先生も、お気軽にお問い合わせください。

The National Association of Racing
地方競馬全国協会
競走馬生産振興事業

同じ空の下、ともに生きていく。

牧場はすべての競走馬にとって、はじまりの場所です。
たとえば、誰もが知っているような名馬も
どこかの牧場で生まれ、多くの人に愛され、
人びとに感動を与えるような、偉大な競走馬となりました。

牧場で働く私たちは、そんな競走馬の可能性を
最大限まで引きだしてあげるために、
真剣に、まっすぐに、今日も愛する馬たちと向き合っています。

はじまりの地から、日本全国の競馬場へ。
そして、その先にある、世界という大きな舞台へ。
輝く未来を夢見て、ここでは、人と馬がともに生きています。

PAGE CONTENTS

01 はじめに
03 ホースマンを目指すみなさんへ
05 牧場で働くということ
07 競走馬の世界
09 生産牧場で働こう！
11 育成牧場で働こう！
13 牧場で働く先輩たち
16 キャリアプラン
17 牧場で働くまで
19 牧場就業後の研修制度
20 牧場就業促進事務局とは？
21 BOKUJOBの取り組み

ホースマンを目指すみなさんへ

馬に愛を、未来に希望を。

サラブレッドを生産し、競走馬へと育てる牧場の仕事は、日本競馬の未来をつくる仕事です。
牧場への就業を考えているみなさんへ、競馬の“今”を築いてきたお二人からのメッセージをお届けします。

社台ファーム代表　吉田照哉さん

社台ファーム代表、日本競走馬協会会長代行、札幌馬主協会会長、日本軽種馬協会理事。
社台グループの創始者である故・吉田善哉氏の長男で、父とともに日本競馬を変えた大種牡馬サンデーサイレンスを導入した。主な生産馬はダイワメジャー、ダイワスカーレット、ヴィクトワールピサ、ネオユニヴァース、アグネスタキオン、ハーツクライ、ソウルスターリングなど。

※2020年3月現在

あなたが育てた馬で、大きな花を咲かせてください

牧場の仕事というのは、こうでなきゃいけないというものはないんです。馬を愛してくれて、仕事をきちっとしていけば、あとは自分の努力で、たとえば馬に乗ることとか、馬を世話することとか、そういうことをひとつずつ覚えていって、それで何年か経ったときに「牧場にいてよかったな」というふうになれば、すばらしいことだと思いますよね。私の牧場にも日本全国から、四国、九州などからも若者が集まってきて、厳しい中にも楽しい職場が作られていますよ。今は間口も広がって、女性の希望者もたくさんいます。繁殖馬のケアや、病気の馬の発見や世話など、女性のほうが得意だなあと思う仕事もたくさんあります。馬をやったことのない人も就職してきますが、最初の1年がんばってくれたら、2年目、3年目にはずいぶんたくましくなっていますよ。

牧場には、繁殖をおこなって産まれた子馬を育てる生産の他にも、馬が競馬場へ入る前に調教をする育成という仕事もあります。育成で働く人にとっては、やっぱり馬に乗れることがすごく楽しいみたいですよ。馬に乗って、かなりの速度で走って、それによって馬もどんどん丈夫になって、強くなっていく。そしてレースの成績につながるのを実感できますから、若い人にとってはチャレンジする価値があるものだと思いますね。

「世界で活躍する馬を日本がつくる時代です」

日本の競走馬の質は、世界のトップに追いつくところまできました。外国から見るとちょっと劣っていた点を、我々の世代が何とか追いつくところまで持ってきて、今はもう世界で活躍するような馬を日本がつくっていく時代になっています。みなさんには大きな花を咲かせてもらいたいと思いますね。大観衆の前で自分の育てた馬が走って、それが勝ってくれたときには感慨深いものがあると思いますよ。

吉田照哉

調教師　手塚貴久さん

JRA美浦所属の調教師、栃木県出身。
父が足利競馬場の調教師であったが、父への反発心から普通にサラリーマンになろうとしていたところ、大学4年生の時に北海道に旅行に行った牧場で若馬が走っている姿に感化され、競走馬に関わる仕事に興味を持つことになる。育成牧場での経験を経て中央競馬の厩務員、調教助手から調教師へ。一般社団法人日本調教師会関東本部長、中央競馬のGI勝利は8勝。主な管理馬はフィエールマン、ユーバーレーベン、アユサン、シュネルマイスター、アジアエクスプレス、アルフレードなど。

※2021年5月現在

馬は人に夢と感動を与えてくれます

競馬、とりわけGⅠ競走のゴールの瞬間は、見る人に感動を与えてくれます。
一般的には、優勝した馬主、騎手、調教師といった表舞台に立つ人たちが注目されがちですが、実は競馬の世界には、表舞台では見ることが出来ない奥深い魅力があります。1頭の馬がGⅠ競走に勝つということは、出産、馴致、育成、競走、それぞれの過程で携わった方々の努力がワンチームとして実った成果なのです。

「サラリーマンとは異なる感動の世界」

一般的に牧場を含め、競走馬に関わる仕事は勤務時間や休日が普通のサラリーマンと異なるため若者には敬遠されがちです。しかしながら、この世界では普通のサラリーマンでは味わえない感動を得ることが出来ます。自分が担当した母馬から仔馬が誕生する瞬間、離乳した仔馬と自分とで培う信頼関係、調教を重ねるごとに力強く成長していく姿、これらのプロセスを経て自分の携わった馬がレースで優勝した時の感動はサラリーマンをしていては決して味わえないものです。また、かつて自身が手掛けた馬の子供たちを新たに手掛ける喜び、その子供たちが父母を超える成績を残した時の感動は堪えられません。

「あなたの努力が未来の名馬をつくります」

競走馬の生産・育成に関しては、いわゆる勝利の方程式のような絶対的な正解はありません。携わった人がそれぞれ創意工夫し、試行錯誤を重ねながらその正解を求めて作り上げていくという楽しみがあります。私も牧場勤務から始め少しずつ経験を重ね試行錯誤を繰り返しながら何とかやってきました。おかげさまで、少しだけ楽しい思いもさせて頂きました。皆さんも牧場で働き、このような感動を味わってみたいと思いませんか。

手塚貴久

撮影：岡田修平

牧場で働くということ

想いにこたえる、馬をつくる。

サラブレッドは、生まれたときから競走馬と呼ばれるわけではありません。日々の厳しいトレーニングで鍛え上げることで、サラブレッドは競走馬として成長していくのです。レースでは力強く駈け抜ける馬たちも、実際は繊細な生き物なので、その飼養管理には細心の注意が必要です。生産牧場、育成牧場では、深い愛情と強い責任感を持って、競走馬をつくり上げていきます。こうして成長した競走馬には、馬主や調教師、騎手、調教助手、厩務員、装蹄師、獣医師など、多くの人の夢が託されます。

そんな人びとの想いにこたえるような馬をつくることが、生産・育成のプロフェッショナルとしての私たちの使命です。

牧場の仕事は、かんたんなものではありません。ときにはつらいこともあるかもしれません。うまくいかず、壁にぶつかることもあるかもしれません。でも、牧場には同じ夢を見る仲間がいます。ともに高め合える、ライバルがいます。馬を愛する人たちが志をひとつにして、今日も、競走馬という命と向き合っているのです。

競走馬をめぐる、人びとのつながり。

牧場で働くということは、競馬に関わるコミュニティの一員となることです。
1頭のサラブレッドに夢を託す多くの人たちと、その関係性を、みなさんが働くかもしれない生産・育成牧場*を中心にご紹介します。 *生産から育成までを一貫して行う「総合牧場」もあります。

生産牧場

日本には約800戸の生産牧場があり、そのうち約90%以上が北海道に集中しています。また、生産頭数についても北海道が全体の約97%以上を占めています。牧場の規模は、母馬の所有頭数1頭から200頭以上までとさまざまで、その経営形態も少人数の家族経営や従業員を多数雇用する企業経営など多岐にわたります。

＜生産牧場の主な収入＞
①牧場で所有する母馬から生産した「子馬の売却益」
②馬主の所有する母馬とその子馬を預かることで得る「預託料」

©JRHA

預　託

育成牧場

馬主から預かった馬の調教が主な仕事です。育成牧場は、「人が乗れるように訓練する騎乗馴致や基礎体力をつける初期調教を行う牧場」と現役競走馬の「レース出走に向けた調教や調整を行う牧場」に分かれ、前者が主に北海道、後者はJRAトレーニングセンターのある茨城県美浦村と滋賀県栗東市近隣に多く存在しています。

＜育成牧場の主な収入＞
①馬主の所有する競走馬を預かることで得る「預託料」
②調教によって付加価値を付けた「育成馬の売却益」

販売・購入

調教・調整

馬主 うまぬし

競走馬の所有者である馬主は、JRAに約2,600名、地方競馬に約4,500名が登録されています。自ら生産・育成牧場を経営し、繁殖から育成、調教、出走まで競走馬を一貫して管理する馬主はオーナーブリーダーと呼ばれます。

預　託

調教師

厩舎を運営（調教助手や厩務員を雇用）して、馬主から預かった馬を管理・調教し、レースに出走させます。調教師は免許制で、JRAでは約190人、地方競馬では約500人が交付されています。

賞　金

出　走

レース（競馬場）

JRAには札幌・函館・福島・新潟・中山・東京・中京・京都・阪神・小倉の10ヶ所の競馬場があり、地方競馬には全国15ヶ所の競馬場があります。JRAのレースに勝利すると、その1着賞金は未勝利戦で約400～500万円、日本ダービー、ジャパンカップ、有馬記念などのGⅠ競走で約1～5億円となります。世界一の賞金額（当時）を誇るドバイワールドカップでは、2011年に日本馬のヴィクトワールピサが優勝し、1着賞金600万ドル（日本円で約4億8000万円）を獲得しました。

ヴィクトワールピサ　©J-FUKUDA

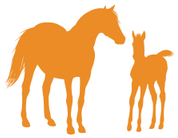
©JRA

1頭のサラブレッドが競走馬になるまで。

サラブレッドは誕生してから競走馬としてデビューするまで、多くの人の熱い想いに支えられています。
母馬のもとを離れ、仲間の子馬と馬社会のルールを学び、
人びとの愛情と期待を一身に受けながら、競走馬として成長していくのです。

母体内（約330日）

胎子～誕生～授乳期



妊娠（母馬）管理～

初期育成

競走馬を引退した牝馬は生産牧場に戻り、4～6歳前後から母馬となります。母馬の妊娠期間は約330日で、年に1回（3～4月前後に）1頭を出産します。子馬は生まれて1時間もすると自分で立ち上がり、2時間後にはお乳を吸います。2～3日もすると母馬と一緒に放牧できるようになり、6ヶ月ほどで離乳、母馬との別れを迎えます。子馬は子馬同士の社会へと、母馬は翌年のお産の準備へと入るのです。

当歳（とうさい）（0歳）

教育期

中期育成

当歳の11月頃を過ぎると、放牧地での運動によって子馬は基礎体力をつけていきます。この時期には、同じ放牧地の仲間たちと馬社会のルールや人とのコミュニケーションを学びます。馬は生まれた年を当歳（0歳）と数え、以後毎年1月1日に年齢を加えていきます。1歳の春頃から馬の体力は急速に発達し、秋になるといよいよ人を乗せる訓練が始まります。

1歳

馴致（じゅんち）期

騎乗馴致

1歳の秋になると馬に人を乗せるための騎乗馴致が行われます。まずは装着する馬具に馴れさせる訓練を、馬が納得するまで行います。馬具に馴れると人が実際にまたがる騎乗馴致に移るのですが、馬にとって人が背中に乗るというのは自然な状態ではありません。人を乗せることに少しずつ馴れさせ、騎乗者を背にして歩き、駈歩（かけあし）にいたるまでの訓練を、数週間かけてゆっくり行います。

2歳～

基礎体力養成期

初期調教

騎乗馴致された馬は、1歳末から2歳にかけて、駈歩などによる騎乗運動で負荷を与えます。この時期はデビューに向けて本格的な調教のための準備期に当たり、騎乗者を乗せて走ることによって、馬の筋肉や骨などの発達を促します。また、騎乗者の制御に従う訓練を行うことも、この時期の重要な目標のひとつとなります。

能力向上期

調教

馬が騎乗者の体重の負担にも馴れ、騎乗者の意思通りに動くようになると、実際のレースの出走時期に合わせて持久力（スタミナ）づくりが始まります。こうした調教が開始される時期は、その時の馬の状態や調教担当者の考え方にも左右されますが、順調に成長すると2歳の春には本格的な調教に移っていきます。

能力判定

仕上げ～出走

レースに必要なスタミナがつくと、スピードを養成するための追い切り調教が行われるようになります。追い切りとは実戦に近い調教のことで、調教タイムや馬の動きから、その馬がレースに出走できる体力があるかどうかの判定ができます。馬は生まれてから以上のような過程を経て、競走馬となり競馬場でレースに出走することになります。

生産牧場

コンサイナー

育成牧場

トレセン・競馬場

コンサイナーとは？ 主に1歳セリ市場での売却を目標に、上場する馬を生産者から預かり、仕上げていく仕事です。セリ市場のような特殊な環境下でもしつけの行き届いた立ち振る舞いができるように馴致を行い、馬がより魅力的に見えるようにコンディションを整えます。

生産牧場で働こう!

新しい命を育む生産牧場。

速く走ることを目的に生まれるサラブレッド。その血統の歴史は300年以上受け継がれています。
生産牧場は、サラブレッドの血統の根幹となる「繁殖」を中心に行う牧場です。
母馬となる牝馬を飼養管理し、種付け、妊娠、出産を経て、生まれた子馬が離乳するまで愛情を持って育て、
次の育成牧場へと旅立たせる役割を担います。

生産牧場の1年

冬～春

出産前の母馬の管理

母馬の乳房の状態や漏乳などの分娩兆候をよく観察して出産に備えます。難産を予防するために、分娩の1ヶ月ほど前からウォーキングマシンなどで運動不足を解消したり、分娩の直前には陣痛症状・破水が見られないかしっかりと監視を続けます。

春～夏

出産後の子馬の管理

生後しばらくは健康状態をよく観察して、何かあればすぐに獣医師を呼ぶなどの対応をします。子馬の成長には吸乳、睡眠、自由運動の3つが重要であり、ストレスや体調などにも注意をしながら、成長を促すための放牧と馬房内休息を日々実施します。

夏～秋

セリ市場への上場［1歳］

馬主（オーナー）が決まっていない1歳馬は夏から秋にかけて実施される1歳市場に上場し、高評価（高額取引）を目指すのが一般的です。中でも発育が良く順調に成長した注目馬の場合、セレクションセールなどの選抜市場を目指します。

夏～秋

子馬のしつけ（引き馬）［当歳～］

放牧・集牧の際などの引き馬は、「人馬の信頼関係」や「人が馬のリーダーになること」を教える有効な手段です。人の指示に従って歩くことと、子馬自身のバランスで歩くことの2点をしっかりと教えることが、1歳秋からのスムーズな騎乗馴致につながります。

夏～秋

牧草の収穫（草地管理）

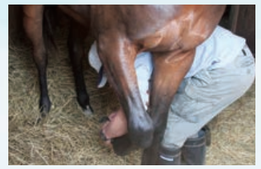
冬季の飼料として不可欠となる乾牧草の収穫は、牧場にとって重要な仕事です。刈り取りから乾燥・収穫までに連続して3、4日間の晴天が必要なため、天気のチェックが欠かせません。また、掃除や草刈などの放牧地の管理のほか、土壌の改良や草種の選定などにも気を配ります。

生産牧場のある1日のスケジュール

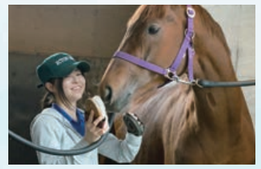
6:00 集牧（1歳）
夜間放牧をしている1歳馬を馬房に入れることから1日が始まります。馬の息遣いや歩様などに異常がないかチェックし、いつもと違うところがあったらすぐに報告します。

7:00 放牧（当歳と母馬）
今日担当する馬への指示や相談などの軽いミーティングの後は、まだ夜間放牧をする体力のついていない当歳馬を母馬と一緒に放牧地へと導きます。

8:00 馬体のチェック
夜間放牧に出していた馬の体温を測り、痛いところがないか、ケガをしていないか、体全体に触れてチェックします。

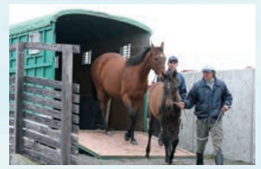


9:00 馬体の手入れ
放牧中に寝転んで泥などがついているので、体全体をきれいに拭いてあげます。この作業は、人間に触れられることを嫌がらないようにするための馴致も兼ねています。



10:00 馬房の掃除
放牧に出た馬の排泄物や汚れた寝ワラを取り除き、馬房を清潔に掃除します。掃除後は新しい寝ワラを作り補充します。

昼休み 12:00 当番制 種付け
種付けは当番制。種馬場には母馬と一緒に子馬も馬を運ぶ車（馬運車）で連れて行きます。種付けは、子馬に馬運車に乗ることや母馬から離れて我慢することなどを教える良い機会でもあります。



14:00 セリ上場馬の馴致
正しい姿勢で立つことやまっすぐ歩くことは、かんたんなようで実は大変です。馬とのコミュニケーションをとるために引き運動を行いながら、歩くことでしか鍛えられない筋肉もつけていきます。

15:30 集牧（当歳と母馬）と放牧（1歳）
放牧から帰ってきた馬の体のチェックや手入れ、そして夜間放牧を行う馬の馬房の掃除などを終え、17時頃に一通りの仕事が終了します。

育成牧場で働こう!

強い馬をつくる育成牧場。

育成牧場の役割は、サラブレッドを競走馬となるために訓練し、成長させることにあります。
サラブレッドといっても、生まれてすぐに人を乗せて走れるわけではありません。
若馬（1歳馬）に、鞍をつけ人を乗せるという基本を馴致することからはじめ、
競走馬として速く走るというところまで段階を追って訓練します。
サラブレッドが持つ競走馬としての能力を引き出す役割を担います。

育成牧場の1年

夏～秋

牧草の収穫（草地管理）

春から秋にかけて、若馬たちが放牧中に自由採食する放牧草は、競走馬としての健全な成長に不可欠です。
生産牧場でも、育成牧場でも日々の草地が（放牧地）管理は大変重要です。

夏～秋

騎乗馴致までの管理

1歳馬たちを広い放牧地で集団管理します。この時期に牧草をしっかり食べて、十分な運動量を確保することで、その後のトレーニングに向けた体力を養います。病気やケガ、太りすぎや栄養不足などをチェックして、放牧時間やエサの量を調整します。

秋～冬

騎乗馴致

はじめて鞍をつけて人が騎乗できるようにするこの過程は、育成牧場の中でもっとも重要なステップです。騎乗する前に、ハミから2本のレーンをとって後から馬を動かす「ドライビング」を行うことで、手綱によるハンドル操作を教え、徐々に馴らします。

春～夏

卒業（トレセン・競馬場へ）

スピード調教やゲート練習など、デビューに向けた仕上げを行います。仕上がりの早い馬は、6月から始まる新馬戦*に向けてトレセンや競馬場などに移動しますが、一部の馬主の決まっていない馬は、トレーニングセールに上場してセリにかけられます。

＊ホッカイドウ競馬では4月から

冬～春

馬主への対応・報告

馬主や調教師に対し、調教進度や体型、性格、疾病などの個体情報を随時報告します。またその訪問に備え、いつでも馬をしっかり見せられるよう、その展示手順を確認して馬にも理解させるとともに、日々の場内美化に努めます。

育成牧場のある1日のスケジュール

5:00

当番制 朝飼い付け

1日の始まりは季節によって異なりますが、開始は大体5時～6時の間くらい。馬の運動時間を考慮に入れて、早めの飼い付け（給餌）をします。きちんと食べるか、調子の悪い馬がいないかなどを確認します。

7:00

放牧

運動（調教）を開始した馬たちは、人の手によって細かな飼養管理が行われます。牧草のある広い放牧地に放すと食べ過ぎや、オーバーワークになることもあるので、調教が進むにつれて、草の生えていない小さなパドックでの放牧となります。

8:00

ウォーキングマシン

騎乗調教前後のウォーミングアップ、クーリングダウンや軽めの運動に使われます。

9:00

馬房の掃除

馬が放牧やウォーキングマシン、騎乗調教に行って空になった馬房から掃除します。ワラやウッドシェイビングの寝床を整えます。馬糞（ボロ）や汚れた部分を取り除き、新しい敷料を補充します。

10:00

調教

騎乗調教を行い、競馬場やトレーニングセンターに入厩しても耐えられる体力づくりを行います。馬ははじめから人が乗れるものではなく、育成牧場で「乗り馴らし」と呼ばれる騎乗馴致を経て人が調教できるようになります。また、セリ上場へ向けての馴致も育成牧場で行うことがあります。

昼休み
12:00

15:00

集牧・馬体の手入れ

放牧していた馬たちを厩舎に入れて、息遣いや歩様などに異常がないかチェックします。手入れは馬を清潔に保つとともに、馬と人がコミュニケーションを取る重要な時間ともなります。

16:00

夕飼い付け

食事を与えた後は厩舎清掃をして、17時頃に主な作業は終了です。

19:00

当番制 夜飼い付け（ナイトチェック）

水と乾牧草を与えて、異常の有無を確認します。

牧場で働く先輩たち

牧場の仕事が、好きですか。

牧場に就職したきっかけは？
仕事のやりがいは？
プライベートの過ごし方は？
牧場で活躍している先輩たちの
本音を紹介します。

生産担当

赤石牧場（北海道沙流郡平取町）
奈良咲枝さん JBBA生産育成技術者研修修了

「この仕事は、私の生活の一部です」

赤石牧場は、生まれたばかりの当歳馬から1歳馬の世話をする生産牧場です。ここで働くのは赤石社長と私の2人。装蹄師としても忙しい社長が不在のときには、牧場のあらゆる仕事を任せていただいています。昔から馬に乗ることが大好きな私は、JBBAの研修を終えてからの6年間は育成牧場で騎乗者として働いていました。その頃に赤石社長と出会い、ご縁があって現在に至ります。1年目は当歳馬の触り方も分かりませんでしたが、2年目からはそれぞれの馬の性格をつかんで接することができるようになりました。

休日でも馬のことばかり考えています。

好きな日に休日が取れる環境ですが、今では休日も馬が気になって、「あの子どうですか?」と社長に電話してしまうほどです。

私のOFF Style!

料理が好きで、昼と夜は基本的に自炊。家では料理やお菓子をつくったり、趣味の絵を描いたりして過ごすことが多いですね。休日は友達とご飯を食べたり、映画を見に行ったり。キャンプに出かけることもあります。普段はあまりしませんが、休日はメイクやおしゃれも楽しんでいます。

生産担当

ダーレー・ジャパン・ファーム（北海道沙流郡日高町）
藤村圭太さん JBBA生産育成技術者研修修了

「馬に関わったことのない方でも大丈夫です」

ダーレー・ジャパン・ファームは生産・育成や種牡馬の繁養などを主な業務として、日本を含め世界6ヶ国に牧場を所有しており、私は日高町にある汐見ヤードで繁殖牝馬と生まれた当歳を扱う仕事をしています。普段は朝7時に出社して厩舎スタッフにその日の必要事項を伝えてから作業を開始。まずは繁殖牝馬と当歳馬の馬体をチェックしてから放牧します。全頭の放牧が終わったら馬房掃除などの厩舎作業をして午前中の仕事は終わり。午後からは厩舎作業や飼い葉つけをして5時に終業します。

情熱と熱意があればやっていけます。

牧場の仕事は力仕事もたくさんありますし、ボロ掃除などもあるのではじめての方は戸惑うことがあるかもしれませんが、体力は仕事をしているうちについてきますし、経験を積めばできるようになりますよ。

私のOFF Style!

家族と買い物や、ちょっと遠出のドライブに出かけたり、どこにも行かない日はゲームで楽しんだり。海も山も近いので牧場スタッフと海や川で釣りをしたり、門別競馬場が近いので競馬に行ったりと、好きなことをしてリラックスして過ごしています。

育成担当

谷川牧場（北海道浦河郡浦河町）
黒川和司さん 日高優駿学園卒業

「もっと自分の技術を上げていきたい」

谷川牧場は競走馬の生産と育成をしており、私は育成を担当しています。仕事は朝5時からで、まず馬を放牧し、水桶を洗い、馬房をきれいにします。午前、午後と馬の調教をつけて、その後に馬の手入れや故障馬の治療、脚もとのチェックを行ない、午後5時前にミーティングをして仕事は終わりです。その他、月に一度の夜飼いの当番週や、セール期間中には上場馬の馴致や引き馬、調教師・馬主さんへの馬見せも担当します。

スタッフがひとつになって仕事をしています。

最初は自分の未熟さでヒヤッとする場面や、ケガもあり、落ち込むこともありました。今はできるだけ不注意がないように、他のスタッフとも協力して仕事をしています。どの馬にも勝ち上がって欲しいと調教していますが、中でも、すばらしい背中の馬を担当することがあると、それは別格な気持ちを味わえますね。

私のOFF Style!

夜は買い物をしたり、部屋でテレビを見たり。車が好きで、好きな音楽をかけながらドライブに出かけて気分転換をしています。競馬場にも行きますよ。仕事を離れて、一人のファンとして馬券を買い、レースを眺め、気楽に競馬観戦できる時間も好きです。

育成担当

千代田牧場（北海道日高郡新ひだか町）
大月恵太さん 国士舘大学卒業/ジャパンホースマンアカデミー卒業

「BOKUJOBサイトが参考になりました」

千代田牧場は生産・育成を行う総合牧場で、私は育成業務に携わっています。競馬とのきっかけは父親と一緒に行った競馬場でした。そのときに馬が醸し出す迫力とか、スリルですとか、その背景にあるロマンですとか、そういったものに強く惹かれました。私は東京出身で、牧場就職について悩んだ時期もありましたが、父親が背中を押してくれたこともきっかけになりましたし、BOKUJOBのサイトもとても参考になりましたよ。

馬とのめぐり逢いに感謝です。

自分が携わっていた馬が活躍して、牧場に戻ってきたときは嬉しいですね。大レースで勝ってくれることももちろんですが、以前、JRAで結果を出せずに、地方競馬で4連勝して再びJRAに戻るために帰ってきた馬がいました。その馬が馬運車から降りたときに何とも言えない感情が込み上げてきました。

私のOFF Style!

丸々1日休みのときは、車で札幌や苫小牧まで出かけることもあります。映画を見たり、買い物をしたりして気分転換を図ります。あと、千代田牧場では月に2回、福利厚生で近くの温泉に入れるので、それを利用したりもします。先輩たちと文字どおりの裸のお付き合いで悩みなんかを聞いてもらうこともあります。

育成担当

加藤ステーブル（北海道沙流郡日高町）

内田健さん 桐光学園高等学校卒業

「工夫ひとつで馬の変化を感じられます」

競走馬の生産と育成を行っている加藤ステーブルには、毎年夏から秋にかけてたくさんの1歳馬が入厩します。翌年夏から始まる2歳戦に向けて調教を進めるのですが、人間の工夫ひとつで馬を変化させられることは、育成の醍醐味だと思います。手綱を通して馬の癖を直したり、ゲート入りや走るフォームが良くなったりすると、とてもやりがいを感じます。

うれしいのは、育てた馬が活躍すること。

以前、サンツェッペリンという馬を担当したのですが、幼い頃から身のこなしが柔らかくてバネがあり、高い素質を感じていました。順調にデビューして3歳の1月に京成杯（GⅢ）で優勝。その時は仕事として中山競馬場にいましたが、これまでに味わったことのないような感動の瞬間を目の当たりにしました。

私のOFF Style!

寮で生活しているのですが、寮母さんが栄養バランスを考えた食事をつくってくれるので、体調管理がしやすいですね。また、牧場のおばちゃん（社長夫人のお母さん）もいろいろサポートしてくれて、洗いたてのシーツを用意してくれたり、仕事着を洗濯してくれたり、本当に助かっています。

種牡馬担当

社台スタリオンステーション（北海道勇払郡安平町）

星壮一さん 江差高等学校卒業

「馬たちが、いい馬生を送れるように」

社台スタリオンステーションは現在31頭の種牡馬を繁養しており、昨シーズンは4376頭の繁殖牝馬に配合を行いました。オンシーズン（2月から7月）の始業は5時で、すべての種牡馬を放牧に出し、種付けのスケジュールを確認します。7時には集牧と手入れを行い、8時から種付けです。種付けは1日に3回で、8時、13時、17時とスケジュールが組まれています。

みんなの思いも背負って仕事をしています。

入社後1年目に白老ファームで生産を、2年目は早来ファームに移った後、3年目から社台スタリオンステーションで働かせてもらっているのですが、入社した頃に白老ファームで誕生したのがドリームジャーニーでした。出産の頃から扱い、成長を見届けた馬がＧⅠを3勝もして、社台でスタッドインすると知ったときはうれしかったですし、自分から担当をやらせてくださいと頼みました。

私のOFF Style!

以前はノーザンファームのサッカーチームにも入っていたことがあったのですが、怪我をしてからはやっていないですね。趣味は色々とありますが、子供と遊んでいたり、家のことをやっていたりすると、あっという間に1日が終わってしまいます。休みの日は家族と買い物や旅行に行っています。

獣医師

（株）ひだかC.L.C（北海道新冠郡新冠町）

武田尚悟さん 酪農学園大学卒業

「常にあらゆることを想定して行動します」

私は競走馬を診察する獣医師の仕事をしています。人間と異なり馬はすべて往診で、普段は朝7時くらいから出かけますが、繁殖シーズンである2～7月くらいまでは急を要する連絡が多くなりますので、柔軟性を持って対応しています。一日にまわる牧場は、忙しいときで20件ほど。馬の生命に関するような連絡が入ったら、時間を問わず夜中でも駆け付けています。

牧場とのコミュニケーションも重要です。

時として馬の生命や、そうでなくても競走生命に関わるような仕事ですから、当たり前ですが一生懸命、全力で、集中して診察する。ほんの少しの変化や予兆を見逃さないために、馬の目や顔や行動を観察して、変化や違いに気が付けるようにしています。治療した馬のオーナーが喜んでくれるのはうれしいですし、感謝されると仕事に対する喜びを味わえます。達成感がある仕事だと思います。

私のOFF Style!

お産や病気が落ち着いている時期は週休2日のお休みをもらえるので、時間ができたら旅行によく行っています。ただ、獣医学は日々進歩していますので、若手の私としてはもっとがんばらなくてはいけない世界です。周囲から信頼の厚い獣医になるために、常に勉強も欠かせません。

キャリアプラン

君が踏みだすと、夢は動きだす。

これからの人生を想像しながら、牧場での仕事について考えてみてください。

スマイルファーム
中村広樹代表

夢を追いかけ、牧場主に。

高校在学中には馬に携わる仕事をしたくて親へ思いを伝えたところ、最初は反対されましたね。説得はしましたが、親から出された条件は大学に合格すること。この条件をクリアできたため、親を再度説得して大学を中退し、ハローワークで見つけた浦河町の生産育成牧場に就職しました。

19歳 未経験で浦河町の生産育成牧場に就職

入った牧場では生産からトレセンへの入厩前の調教まで一通り経験できました。当時、開業から3年程度の新しい牧場で、従業員も少なく、比較的早い時期から馬の騎乗調教もさせてもらえました。就職して3～4年目くらいには自分がしたい馬の仕事も見えてきて、「繁殖の仕事がしたい。できることなら自分の牧場を持ちたい。」という気持ちが強くなったのもこの時期です。

24歳 結婚を機に、オーナーブリーダー生産牧場の場長へ

妻とは同じ牧場で働いていましたし、彼女の実家は生産牧場だったこともあって、結婚と同時期に牧場を辞めることも理解してもらえました。5年程勤めた牧場を離れて、オーナーブリーダーの生産牧場で場長として妻と一緒に働きはじめます。当時まだ若く、経験も浅い私にオーナーはよく任せていただいたと思います。また、周りの牧場の方たちにも手助けいただきました。

30歳 日高町にスマイルファームを開業

牧場の開業はタイミングでした。ちょうど後継者がなく辞める牧場があったため、場所を借りて開業しました。その後、ご縁があって現在の場所を取得して牧場を移転しました。牧場をやっていると夢は数え切れないほどあります。セリで高く馬を売ってみたいですし、重賞競走を勝つ馬も生産したい。自分で馬を所有して走らせてもみたい。でも今は、買ってくれたり、繁殖牝馬や子馬を預けてくれる馬主さんに喜ばれる馬を育て、これまで支えてくれた方に恩返しをしたいと強く思っています。

馬の世界を目指すみなさんへ

馬の仕事に就くには「情熱がある」「やってみたいと思う」「好き」の3つが最低条件だと思います。それに仕事が生活の一部になる覚悟があることも必要だと思います。今はBOKUJOBでも体験会があったり、牧場のインターンシップなどもあるようなので、迷っているならどんなものか体験してみるのも良いと思います。やる気のある多くの方が、馬に興味を持って、この業界に入ってきてくれることをお待ちしています。

牧場で働くまでの2つのルート

豊かな自然の中で競走馬の生産や育成に関わることができる、牧場の仕事。
華やかなレースで活躍する強い競走馬をつくるには、多くの人材が必要です。
そんな牧場で働くためのルートは、大きく2つ。みなさんのスキルや希望に合わせてお選びいただけます。

ROUTE 1 まずは、一年間の研修から

はじめてでも安心。研修で技術を身につける。

「馬は好きだけど、実際に乗ったことはない」「牧場で働く前に、基礎から勉強したい」
そのような方のために、以下の研修制度があります。
例年ほとんどの研修生は未経験者ですが、専門のプログラムにより、
生産・育成に必要な知識と技術を習得することができます。

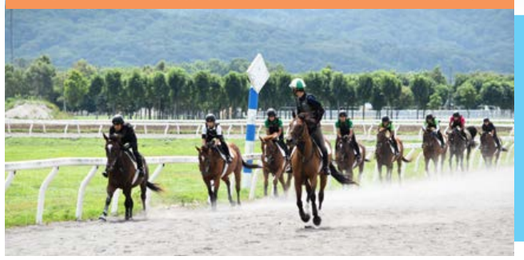
生産育成技術者研修（JBBA研修）

生産育成の知識・技術全般を習得

- 1年間（4月～3月）
- 全寮制（北海道 新ひだか町）

https://jbba.jp/trainee/ 詳細はこちら

育成調教技術者養成研修（BTC研修）



育成調教の技術を中心に習得

- 1年間（4月～4月）
- 全寮制（北海道 浦河町）

https://b-t-c.or.jp/ 詳細はこちら

その後

ROUTE 2 すぐに牧場へ就職

実際の業務を通じて技術を身につける。

サラブレッドの繁殖や、育成や調教のための騎乗には高度な技術が必要とされます。
このため、牧場では一定レベルの技術を持った方を採用するのが一般的です。
ただし、人材養成に関する考え方はさまざまで、
初心者にも門戸が開かれている場合も多くあります。

BOKUJOB.com

修了者の牧場就職率は100％

この2つの研修は修了後に、生産・育成牧場などで3年間以上働くことが条件となります。
修了生に対しては毎年たくさんの牧場から求人が寄せられますので、
希望に合った条件の牧場を選び、就職することができます。

BOKUJOB.comで最新の求人情報を公開中

「BOKUJOB.com」は、生産・育成牧場への就業応援サイトです。
全国の求人牧場の中から希望条件に合う牧場を検索して、求人への応募や牧場への問い合わせができます。

進むべき道は、ひとつじゃない!

馬に関わる仕事を目指すとき、選択肢はひとつではありません。
ここでは騎手、厩務員、獣医師など数ある職業の中から、
馬の蹄（ひづめ）を管理する
「装蹄師」という仕事について紹介します。

装蹄師　馬の蹄（ひづめ）のスペシャリスト

緑のターフを全力で駆け抜ける競走馬。その力強い動きは、馬体を支える4本の細い足の先端にある蹄が支えています。そのため蹄の管理は繊細で、伸びすぎて変形した部分をカットし、バランスを整えて、状況に合った適切な蹄鉄を装着する装蹄が重要になります。装蹄には蹄の保護に加えて、円滑な動きのサポートや運動器病の予防の役割もあります。この装蹄という技術によって、競走馬が最高のコンディションでレースに出走できるように、蹄を適切に管理するスペシャリストが装蹄師です。

装蹄師の就業形態－勤務者から個人開業まで－

勤務装蹄師　JRAやNAR職員、あるいは牧場や乗馬クラブの職員など、組織や会社に勤務して給与を受け取り、装蹄業務に携わる装蹄師です。

開業装蹄師　個人開業の場合、「頭数 × 装蹄料金」が収入になります。頭数が増えれば、それに比例して収入も増えます。一方、勤務装蹄師とは異なり、ケガや事故などによって仕事ができなくなれば、収入もなくなります。事故などに対する備えは、自身でしなければなりません。

独り立ちまでの道のり

装蹄師の資格を取れば、すぐに独り立ちできるわけではありません。技術の習得にはそれなりの年数が必要です。開業装蹄師を目指す新人装蹄師は、ベテランの開業装蹄師に弟子入りすることが一般的です。

装蹄師になるまでの道のり

装蹄師になるには、日本装削蹄協会が開催する1年間の装蹄師認定講習会を受講し、認定試験に合格する必要があります。装蹄師認定講習会を受講するための入講選考試験は、筆記・面接・体力試験が行われます。

入講選考試験（筆記・面接・体力試験）
↓
装蹄師認定講習会（1年間：全寮制）→装蹄師認定試験
↓
認定装蹄師

■装蹄師認定講習会募集概要：年齢／18歳以上
■問い合わせ先：（公社）日本装削蹄協会装蹄教育センター
栃木県宇都宮市鶴田町1829-2
tel. 028-648-0007
https://sosakutei.jrao.ne.jp/

牧場就業後の研修制度

競走馬を扱うための専門的な技術や知識を習得するために、
牧場で働く方を対象としたさまざまな講演会、講習会が開催されています。
また、キャリアアップのための海外競馬の視察や海外研修に対する補助制度も充実しています。

海外視察・研修

米国競馬事情視察研修

主な研修内容は競馬の祭典ブリーダーズカップの観戦をはじめ、米国内の牧場やスタリオン（種馬）、セリなどの視察を通じて米国の競馬事情を学び、「より先進的な競馬産業のあり方」について研究することです。牧場従業員の、さらなるキャリアアップを目的としています。（日本競走馬協会主催）

生産育成技術者海外派遣研修事業

国際化が進展する中、調教技術の多様化が求められていることから、生産育成に関する高度な知識・技術の習得を目的とする海外研修経費の一部を、競走馬育成協会が補助しています。研修者の負担を軽減し、意欲的な就業者のステップアップにつなげることが目的です。（競走馬育成協会主催）

国内研修

軽種馬後継者研修

この研修は生産牧場の後継者や家族、スタッドマネージャーを対象に、毎年11月に10日間の日程で行われます。繁殖牝馬・子馬の飼養管理のうち、最新の栄養管理や運動管理、疾病などの治療の講義に加えて、馬の取り扱いや乗馬といった実技を実施しています。また、軽種馬経営に携わる人たちが集まるコミュニケーションの場にもなっています。（日本軽種馬協会主催）

育成調教技術者短期講習会

育成牧場での慢性的な騎乗員不足の一助として、育成牧場で勤務している方を対象とした講習会を年に数回実施しています。BTCの教育用馬と教育施設等を活用し、軽種馬の育成調教に関する技術並びに知識の向上を図ることを目的としています。（軽種馬育成調教センター主催）

その他の国内研修

競走馬育成協会、JBBA、BTC、JRAなどが主催する「巡回馬学講座」「育成技術講習会」、「日高育成牧場実践研修プログラム」などが随時開催されています。

馬学講座ホースアカデミー

日本軽種馬協会では生産・育成技術向上を目指し、この分野に携わる多くの方々に活用していただくため、JRAの最新の研究成果をお伝えする番組を用意しています。

いますぐアクセス

どなたでもご覧いただける番組です。

牧場就業促進事務局とは?

日本の競馬界では、北海道を中心とした全国約800戸の牧場で生産される約7,000頭のサラブレッドが、1歳秋ごろから人を乗せるための育成調教を経て、2歳春から初夏にかけて全国各地の地方・中央の競馬場でデビューしています。オグリキャップ、ディープインパクト、キタサンブラック。みなさんもよくご存じの名馬たちは、馬づくりに情熱を注ぎ、生産・育成技術の向上を目指して、たゆまぬ努力をしてこられた、全国の牧場とそのスタッフたちの結晶であるといえます。

事務局を構成する私たち5団体は、「（公社）競走馬育成協会」が競走馬の育成技術の向上、「（公社）日本軽種馬協会」は強い馬づくりに向けたインフラ整備や種牡馬事業、「（一社）日本競走馬協会」は競走馬のセリの開催、「（公財）軽種馬育成調教センター」は次世代を担う若手騎乗者の育成、そして「JRA日本中央競馬会」が中央競馬の開催と、それぞれが日本競馬の発展のために日々取り組んでいますが、同時に競走馬の生産・育成を担う牧場の多くが慢性的人手不足に悩んでいることも目の当たりにしてきました。

一方、競馬の世界では国際化が進み、日本で生産・育成されたサラブレッドが国内のみならず、フランスの凱旋門賞やドバイワールドカップといった世界の檜舞台で海外の有力馬と競う時代となっています。今後、さらに日本馬がグローバルな活躍をしていくためにも、その基礎となる優秀な人材と技術が欠かせないことは事実です。

オグリキャップ

「強い馬づくりは、まずは優秀な人づくりから」

2008年8月に私たちは「競走馬の生産・育成の現場を広く紹介することにより、フレッシュでやる気に満ちた若者の就業を促進し、世界の主要レースで活躍できる馬づくりを目指す」ことを目的に、（公社）競走馬育成協会に事務局を置く「牧場就業促進事務局」を設立いたしました。これを機にぜひとも牧場で働くことに関心をお持ちいただき、日本競馬の未来を支える「強い馬づくり」をみなさんの職業選択のひとつとしてご検討いただけたら幸いでございます。

牧場就業促進事務局一同

ディープインパクト

キタサンブラック

BOKUJOBの取り組み

メインフェア［関東］・関西フェア［関西］

JRA東京競馬場で開催される「BOKUJOBメインフェア」は、競走馬の生産・育成牧場を紹介する就職イベントです。全国の生産・育成牧場が一堂に集まり、参加者に仕事内容や特長を説明します。また牧場の仕事に必要な技術を学ぶ研修機関の関係者も参加します。またメインフェアの関西版として「BOKUJOB関西フェア」を開催することで、より多くの地域のみなさんに牧場の仕事を紹介する機会を設けています。

Web相談会（通年開催）・Webフェア（集中開催）

競走馬の生産・育成牧場の仕事や魅力について、生産牧場や育成牧場で働いている方や採用担当者とオンラインで個別に相談できるイベントを開催しています。牧場関係者だけでなく、日本軽種馬協会（JBBA）、軽種馬育成調教センター（BTC）の研修担当の教官やBOKUJOB相談員とも相談することができます。

サポートデスク（広報＆相談コーナー）［全国］

BOKUJOB相談員がJRA競馬場や馬術競技大会会場など全国各地に出向き、広報&相談コーナーを開設します。牧場の仕事や魅力、気になること等の質問にBOKUJOB相談員が直接お答えします。また求人募集中の牧場や牧場就業促進活動（BOKUJOB）についてもご説明します。

牧場で働こう体験会［北海道］

北海道の生産・育成牧場での就業体験を通して、牧場での仕事や生活への理解を深めていただくイベントです。このイベントでは、JBBA研修・BTC研修を修了して牧場で働く先輩たちや現役の研修生との交流や研修施設の見学などの機会もあります。このほかに、総合牧場や種馬場の見学なども実施しています。

牧場で働こう見学会［関東］［関西］

JRAのトレーニング・センター近隣の複数の育成牧場を訪れ、よりリアルな「現場の仕事」を知ってもらうイベントです。調教コースや厩舎などの牧場施設や関連施設などを見学したり、牧場関係者と質疑応答したりして、牧場での仕事や生活についての理解を深めていただきます。保護者や学校の進路指導担当者の同伴も可能です。

牧場就業促進事務局が運営するBOKUJOBでは、
「若者の牧場への就業を促進する」ためにさまざまな活動を行っています。

競走馬 生産・育成牧場 就業応援サイト「BOKUJOB.com」

生産・育成牧場の仕事や牧場で働く先輩、研修施設などを紹介しているWebサイトです。全国の牧場の求人情報も掲載しているので、希望条件に合う牧場を検索して各牧場の採用担当者と直接連絡をとることができます。最新の求人情報やイベント情報などは、随時更新中。「BOKUJOB.com」は馬が大好きなみなさんを応援しています！

最新の求人情報は▶

https://bokujob.com/

BOKUJOB.com掲載牧場

【北海道】アイズスタッド／アクティファーム／天羽禮治牧場／アロースタッド／岩見牧場／栄進牧場／STウィンファーム／エバグリーンセールスコンサインメント（藤沢牧場内）／追分ファーム／岡田スタッドグループ／岡田牧場／沖田忠幸牧場／荻伏共同育成場／奥山ファーム／オリオンファーム／加藤ステーブル／キタジョファーム／杵臼牧場／木部ファーム／木村牧場／クイーンズ・ランチ／クラウン日高牧場／グランド牧場／桑田牧場／ケイアイファーム／高昭牧場／コスモヴューファーム／サカイファーム／Satou stud 佐藤牧場／鮫川啓一牧場／サンデーヒルズ／清水牧場／下河辺牧場／社台コーポレーション／社台ファーム／白井牧場／ダーレー・ジャパン・ファーム／タイヘイ牧場 白銀牧場／高村牧場／タツヤファーム／チームプレアデス／チャンピオンズファーム／千代田牧場／富田ステーブル／ナスノファーム／錦岡牧場／西山牧場／ノーザンファーム／ノースヒルズ／野坂牧場／パイオニアファーム／ハクレイファーム／ハシモトファーム／服部牧場／坂東牧場／ハントバレートレーニングファーム／バンブー牧場／ビクトリーホースランチ／ヒサイファーム／日高軽種馬共同育成公社／日高大洋牧場／ヒダカファーム／ビッグレッドファーム／ファンタストクラブ／フジワラファーム／Blooming Farm／ペガサスファーム／Maverick／前田ファーム／前野牧場／三嶋牧場／三石川上牧場／ヤシ・レーシングランチ／山際牧場／山口ステーブル／山崎STABLE／吉澤ステーブル／リョーケンファーム／レイクヴィラファーム【茨城県】須藤ステーブル／松風馬事センター／吉澤ステーブルEAST【栃木県】Tomorrow Farm【千葉県】CHC CAROTTE FARM EAST／ナリタファーム【石川県】小松トレーニングセンター【滋賀県】イタクラステーブル／キャニオンファーム土山／グリーンウッド・トレーニング／信楽牧場／島上牧場／吉澤ステーブルWEST／栗東ホース具楽部／ワコーファーム【京都府】宇治田原優駿ステーブル【兵庫県】ヒイラギSTABLE／フォレストヒル【鳥取県】大山ヒルズ【岡山県】EISHIN STABLE（エイシン ステーブル）【鹿児島県】山下牧場

※都道府県別、五十音順 ※2024年4月1日現在